

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年5月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0191600014		
法人名	有限会社 グループホーム・和		
事業所名	グループホーム・あかり		
所在地	〒043-0023 檜山郡江差町字田沢町4 9 2 番地3 (電話) 0139-54-5753		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年3月23日	評価確定日	平成22年5月10日

【情報提供票より】(平成22年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 19年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	12 人 常勤 6人, 非常勤 6人, 常勤換算 4.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	15,000~20,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	66歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北海道立江差病院、佐々木病院、カモメデンタルクリニック
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、山と海に囲まれた自然豊かな環境に立地している。建物の内装や手づくりのテーブル、椅子などは檜を多用し、明るく開放的で清潔が保たれた事業所内は木のよい香りで満たされ、落ち着いた雰囲気である。事業所の温泉は地域の老人クラブに開放し、送迎を事業所が行い、交流の場となっている。管理者と職員は、その人らしい暮らしを実現するために理念を掘り下げ、質の高いケアサービスにつなげるよう努力している。利用者は住み慣れた地域で、ゆったりと穏やかに暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題である、重度化や終末期については医療機関と連携し、家族、医師、事業所との話し合を重ねるなど改善している。災害対策については、消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施し改善に至っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員が3班に分かれて項目を分担し取り組み、日々のケアの振り返りの機会となっている。明らかになった課題は改善に向けて検討し、実践につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は開催回数は年2回と少ないが、様々な立場のメンバーで構成し、利用者の姿を直接見て、事業所を理解する機会となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に気軽に話しやすい雰囲気づくりに工夫や配慮をしているが、今のところ苦情や意見などはない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所の温泉を地域の老人クラブが利用したり、保育園児が来訪してお遊戯や歌を披露している。また、地域交流事業に積極的に参加するなど、交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人の理念を柱に置き、「住み慣れた地域で持てる力を取り入れつつ安心・安全を考えながら共に暮らすこと」を目的とした事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はフロアーの目に付く所に掲示したり、毎日の申し送り時やミーティングで話し合い、確認し、具体的ケアの実践につなげている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会との相互交流も盛んで、地域のイベントに出かける機会を多く確保している。近くの保育園児が来訪して歌や踊りを披露したり、事業所の温泉を地域に開放し、老人クラブのメンバーが入浴に訪れている。また、ヘルパーや看護学校の実習生を積極的に受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員全員が自己評価、外部評価の意義や目的を理解し、職員は3班に分かれて自己評価に取り組み、最終的に管理者がまとめている。自己評価に取り組むことで日々のケアの振り返りの機会となり、マナー化防止に役立っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、行政関係者、民生委員、地域の婦人会など様々な立場のメンバーが参加し、年2回開催している。会議では、事業所からの報告や出席者が意見、質問、要望を出すなど、双方向的な会議運営を行っている。	○	現在、年2回の開催となっているので、今後は2ヶ月毎の開催を目指した工夫や取り組みが望まれる。また、地域包括支援センターなどに参加の呼びかけをし、より幅広く情報や意見を得るよう期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者には些細なことでも相談し、情報交換を積極的に行い、連携強化に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回ホーム便りを発行して、日々の暮らしぶりや行事の様子など写真を掲載して送付している。利用者の健康状態については、リーダーやケアマネジャーが随時電話や手紙で報告している。金銭報告は面会時に出納帳を確認しサインしている。遠方家族や希望する場合には金銭出納帳、領収書のコピーを送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や電話の際など、気軽に話せる雰囲気づくりに留意している。また、内部、外部に苦情申し立て機関を整備して、意見や不満を表出できる機会を確保している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	福利厚生や働きやすいシフト調整に配慮することで離職を最小限に抑えている。日ごろからユニット間の交流を行い、馴染みの関係を築き、異動等による利用者へのダメージを防ぐ努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者と管理者は研修会の参加や資格取得に理解があり、外部研修には積極的に参加できるように事業所としてバックアップ体制を整えている。参加者はミーティングで研修内容を報告し、記録に残して自由に閲覧できるよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	檜山管内の同業者に交流を呼びかけているが、実現に至っていない。	○	地域全体のサービスの質の向上につなげるためにも、継続的に努力することを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が見学し、事業所からの訪問や面接を繰り返し、馴染みの関係を築いてから利用につなげている。また、体験利用の声がけなどもしている。暫定的に2週間の介護計画を作成して利用開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者に尊敬の念を持って接し、地域の風習や礼儀、生活の知恵など多くのことを学びながら、共に寄り添い支えあって暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを大切にし、本人の思いに気を配り、一对一のコミュニケーションをとる中で利用者の意向の確認に努めている。意思疎通の困難な利用者には、動作や表情から意向を把握し、家族等から得た情報を職員間で共有しながら、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が利用者の24時間の様子や気付きを共有する体制を整え、ミーティング、カンファレンス、モニタリングを行い、医師の意見やアドバイス、本人、家族の意向を反映し、チームとして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1、3、6ヶ月毎に定期的にモニタリングを実施し、本人や家族の意向などをカンファレンスで検討し、新たな介護計画を作成している。利用者の状態変化時や変化の予兆をつかみ得た時は、臨機応変に対応し、適切な支援の実行に結び付けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診支援や送迎、帰宅、理美容院への送迎など家族や利用者の状況や要望に可能な限り対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、かかりつけ医に継続して受診可能なことは、本人や家族に説明し、理解を得ている。月1度の往診も行い、適切な医療が受けられる体制を確保し、受診、往診後は、口頭や介護連絡票で家族と密に連絡を取り合っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の支援に至った場合は、家族、医師、事業所間で話し合いや合意を重ねて、その都度、医師から適切な支援指導を受け、職員全員で情報や方針を共有する体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のペースを大切にし、足音をあまり立てないよう歩き方にも気を配り、穏やかに優しく接するように心がけ、利用者のプライバシーや尊厳を損ねない対応を徹底している。記録や書類は事務所に厳重に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一人ひとりの個性と体調に合わせて、その人らしい暮らし送れるよう散歩や買物など、希望に沿う柔軟な支援に努め、本人の望む暮らしの実現に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を把握して献立づくりに活かし、食事が楽しみなものになるようにしている。利用者は能力に合わせて、食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。また、地域のイベントに出かけた時は、外食を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回の入浴と週1回の温泉入浴を実施している。また、希望に添って昼夜問わず臨機応変な対応をしている。入浴前のバイタルチェックと入浴後の水分補給は徹底している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の生活歴を大切に、希望を確認しながら趣味や特技を活かす場面づくりを行い、支援に結び付けている。また、男性は力仕事等、女性は簡単な家事仕事を支援のもと意欲的に行っている。紅葉狩りや花見、イベントに出かける機会も多く、その時は外食を楽しむなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望を尊重し、散歩、足湯、ドライブなど、四季を感じながら、五感を刺激する工夫と配慮をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は基本的に鍵をかけない自由な暮らしを保障している。職員が手薄になる短時間に限り、安全確保のため家族に説明の上、施錠することもある。夜間は防犯上施錠している。居室は本人の希望で施錠することもあるが、安否確認のため本人の許可を得て開錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時対応マニュアルや消防署とのオンラインシステム、スプリンクラーを整備している。消防署の協力を得て年2回に昼間を想定し、避難訓練を実施している。避難経路、消火器設置場所、操作方法は職員全員が確認し、個々が常にイメージトレーニングしている。	○	夜間を想定した避難訓練を、早期に実施することを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事量、水分摂取量を記録し、食欲や全身状態を詳細に観察して、日常の管理や医療機関への情報提供に役立っている。水分摂取量は一日700ml～1,000mlを目安とし、お茶やスポーツ飲料などで補給している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく清潔感があり、採光はカーテンなどを利用して調整している。居間には檜のテーブルを置き、檜の良い香りが漂い、居心地よく過ごせるよう工夫している。事業所の周りに家庭菜園や花壇を作って、野菜や花を栽培し、楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や調度品を持ち込み、個々に応じた生活しやすい居室づくりを支援している。		

※  は、重点項目。